

水道管 耐震補強製品 実証

大成機工



評価実験では鋼製土槽の中に水道管を埋設し、最大変位20cmの震動を与えた

大成機工（大阪市北区、市）の試験施設「Eーディフェンス」は防災科学技術研究所、金沢大学と連携し、独自の耐震補強を施した水道管の震動実験を行った。同研究所兵庫耐震工学研究センター（兵庫県三木市）の試験施設「Eーディフェンス」を水道管の強度試験に使ったのは国内で初めて。阪神・淡路大震災級の震動を与え、地盤崩壊を再現しても水道管の破損を抑えた。相次ぐ災害で防災

「Eーディフェンス」で地盤崩壊再現

破損抑止力を証明

意識が高まる中、耐震補強製品の自治体向け提案を強化する。

実験は奥行き4×幅16×高さ4・5mの大規模な鋼製土槽の中に水道管を埋設し、最大変位20cmの震動を与えた。大成機工が開発した耐震補強製品によって、管の継ぎ手の抜け出しを阻止できることを示した。

大成機工は大阪市と共同で「耐震補強金具」、岡山市と共同で「フランジサポート」をそれぞれ開発している。これらの製品は既に複数の自治体で採用実績があるが、今回の実験で神戸市と共同開発中の「耐震継ぎ輪」の評価も行った。

実大三次元震動破壊実験施設を活用して大成機工の耐震補強水道管の評価実験を実施



大成機工の鈴木社長は「当社製品が水道を守っていることが実証できた。これから出てくる（実験の）データを製品開発に生かしたい」としている。（神戸）